

2024年(令和6年)9月26日(木曜日)

包装開発 全国W受賞

一関市地主町の包装容器設
計製造・東北ウエノ(鈴木雅
彦社長)は、廃棄物を減らし
荷役を軽減する包装で、20
24日本パッケージングコン
テストなど二つの全国賞を受
けた。対応が急がれる物流の
2024年問題に一つの解を
出したとして、高い評価を得
た。製造、輸送などの物流過
程に包装業界が加わることで
改善を促した実例として、広
がりが期待される。

一関・東北ウエノ

同コンテストは、日本包装
技術協会(東京)が主催する
国内最大級の品評会。全国1
29件の中から、同社は包装
技術賞ロジスティクス賞に選
ばれ、8月下旬に東京都で表
彰された。今春、都内で開か
れた全日本物流改善事例大会

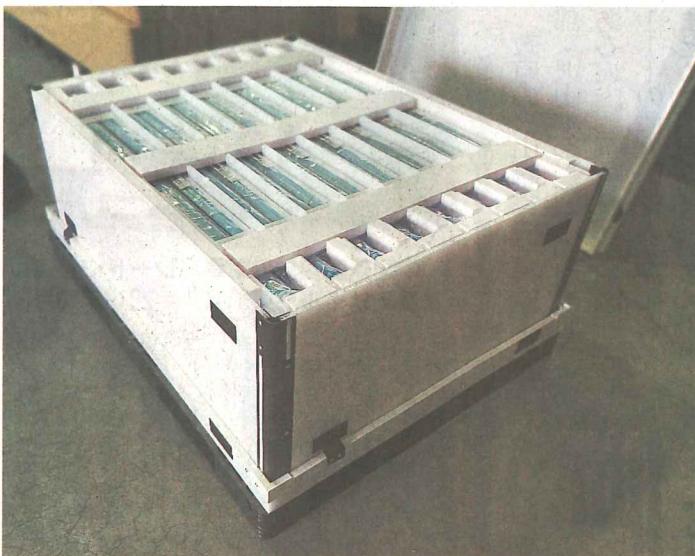
樹脂素材で荷役軽減 24年問題、環境も配慮

2024(日本ロジスティク
スシステム協会など主催)で
も、優秀物流改善賞物流業務
部門に入った。
開発したのは、半導体製造
装置用エアーフィルターの梱
包材。使い捨て段ボールを、
軽くて強度が高く繰り返し使
える樹脂製に変えた。これに
より月1ヶの廃棄段ボールを
なくした。一酸化炭素排出量
も年間4・3ト削減できる計
算だ。

荷役も軽減した。従来は薄
い板状の段ボール箱に、フィ
ルター2台を収納。形が不安
定なため、人力で運んでいた。
改善後は平たいサイコロ状の
ケースに16台を収納し、フォ
ークリフトで運べるようにな
った。4人で1時間かかった
作業が、2人で30分に短縮で
きた。運搬時に落としたり、
倒れたりすることがなくなり
製品不良率も下がった。

21年に金沢市の企業から相
談を受け、東北ウエノ営業技
術部の田原祐樹次長、設計開
発部の佐々木幸子課長らが約
2年かけて開発した。運転手
らの不足で物が運べなくなる
24年問題に対処し、環境面で
も持続可能な物流を可能にす
べく取り組んだ意欲作だ。

鈴木社長(71)は「24年問題
への対策は始まつたばかり。
物流過程に、包装が加わるこ
とで開ける活路はまだまだあ
る」と眞摯える。



東北ウエノが開発した新型包装。荷役を
軽減し、環境負荷も抑える(同社提供)

賞状とトロフィーを手にする(左から)佐々
木幸子課長、鈴木雅彦社長、田原祐樹次長